

| | | | | | | | | | | | |
|--|-----|---|---|--------------|-------------|-----------------|----|---|----|----------|---------|
| 科目ナンバリング | | P-PUB01 8M022 LB90 | | | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | | ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine | | | | 担当者所属・ 職名・氏名 | | 医学研究科 教授 松田 文彦 医学研究科 准教授 田原 康玄 医学研究科 准教授 鎌谷 洋一郎 | | | |
| 配当 学年 | 専門職 | 単位数 | 2 | 開講年度・ 開講期 | 2019・ 後期 | 曜時限 | 木3 | 授業 形態 | 講義 | 使用 言語 | 日本語及び英語 |
| [授業の概要・目的] | | | | | | | | | | | |
| ゲノム科学技術が発展し、DNAシーケンス実験を比較的安価に実現できる時代となった。本講義の目的は、ゲノム科学の発展が21世紀の医療にいかなるインパクトを与えるのかを理解することにある。本講義では、ゲノム科学に携わっている研究者の最新の研究成果とその臨床医学における実践的な応用ならびに応用の可能性についての授業を、各分野の専門家による講義として行う。また、The Kyoto course on Bioinformatics for Genomic Medicineのシンポジウムを講義の一部として行う。 | | | | | | | | | | | |
| [到達目標] | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム医学の概念を理解する。 ・実際に行われている、あるいは近い将来に行われるようになる可能性のある臨床医学へのゲノム科学の応用について、実情並びに展望を学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| [授業計画と内容] | | | | | | | | | | | |
| 1・2ゲノム医学(1)・(2) The Kyoto course on Bioinformatics for Genomic Medicineシンポジウム 3 疾患の遺伝学 (1)多因子疾患鎌谷洋一郎准教授 4 疾患の遺伝学 (2)小血管病のゲノミクス Stephanie Debette客員教授 (ボルドー大学教授) 5 疾患の遺伝学 (3)量的形質鎌谷洋一郎准教授 6 疾患の遺伝学 (4) RNAスプライシングと疾患 Masatoshi Hagiwara 7 疾患の遺伝学(5)単一遺伝子疾患松本直通教授 (横浜市立大学) 8 疾患の遺伝学 (6)慢性疾患のマルチオミックス・アプローチ Dominique Gaugier客員教授 (INSERM) 9 ゲノム医学 (3) HTLV-1関連疾患: 疫学、遺伝学、臨床医学山野嘉久教授 (聖マリアンナ医科大学) 10 ゲノム医学 (4)がんゲノム藤本明洋特定准教授 11 ゲノム医学 (5)薬理遺伝学薮田泰誠グループリーダー (理化学研究所) 12 ゲノム医学 (6)多因子疾患の発症予測鎌谷洋一郎准教授 13 ゲノム医学 (7)ゲノムコホート研究松田文彦教授 14 ゲノム医学 (8)ゲノム創薬岡田随象教授 (大阪大学) 15 Feed back 【注意】 外部講師の都合等により、講義日程に変更が生じる場合があります。 | | | | | | | | | | | |
| [履修要件] | | | | | | | | | | | |
| 統計遺伝学基礎I・IIの履修を強く推奨する | | | | | | | | | | | |
| -----ゲノム科学と医療(2)へ続く↓↓↓ | | | | | | | | | | | |

ゲノム科学と医療(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

- ・ 講義における意見表明の態度
- ・ 講義内容に関する試験を実施する場合がある

[教科書]

授業中に指示する
参考資料は講義の中で適時配布

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

配付資料を活用した復習を主体に行うこと。

(その他（オフィスアワー等）)

講義の途中における質問はもちろんのこと、課外時間での担当教員への訪問等も大いに歓迎する。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。